

Party

Vol.14

発行月：平成26年9月

旭川厚生病院広報誌



目次

1. 巻頭言
2. 診療科から
3. 連携医療機関・関係機関のご紹介
4. 総合相談センター便り
5. 部門紹介～臨床工学技術科



JA北海道厚生連の理念

JA北海道厚生連は、組合員ならびに地域住民の皆様生命と健康を守り、生きがいのある地域づくりに貢献してまいります。

病院の理念

私たちは、「最も信頼され選ばれる」病院をめざします。患者さまの権利を尊重し、いつでも安心して受けられる医療の提供に努めます。地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与いたします。

基本方針

1. 患者中心の医療と安全・快適な療養環境をつくります。
2. 高度医療を推進するとともに、総合周産期医療の確立に努めます。
3. 医療機関相互の機能連携を推進いたします。
4. 職員の教育・研修を推進いたします。
5. 経営基盤の強化を図り、健診事業の充実と医療・保健・福祉活動を通じて地域に貢献いたします。

患者さまの権利

1. 人権は尊重されます。
2. 適切な医療を平等に受けることができます。
3. 治療方法を選択することができます。
4. 十分に納得いく説明をお求めにすることができます。
5. 医療上の個人情報は守られます。
6. 転院、紹介を希望される場合、必要な情報は提供されます。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

巻頭言

医療安全を考える

旭川厚生病院

副院長・医療安全管理室長 畑山 尚 生



平成24年4月より当院の医療安全管理室長を担当しています。日頃は耳鼻科外来で患者の診察を行い、手術場では鼓膜チューブ留置術や扁桃摘出術のような比較的小さな手術から咽喉頭食道摘出術のような大きな手術まで幅広く行っております。

さて、当院では医療安全推進のために様々な取り組みが実践されています。医療安全委員会が月一回必ず開催され医療事故の分析・日常業務の改善・職員の教育、さらには医療安全管理対策と推進に係る審議・答申を行い医療の質の向上を目指しております。特に、職員に対して医療安全・感染対策推進研修会を開催し、顧問弁護士による医療安全対策に係る研修会も毎年開いております。

医療行為が安全で安心できるものでないことは医療従事者なら容易に理解できますが、一般の方々に理解してもらうのは大変難しいことです。当院のように医師数が100名超え又500床以上の大きな病院では、常に何らかのインシデント・アクシデントが発生しています。職員全員が発生した事例の情報を共有・認識してその後の対策を立てることが、医療安全につながると考えております。

最近医療人にとっても痛ましい医療事故報道がありました。東京女子医大病院の小児の集中治療室で人工呼吸中に使用が原則禁止されているプロポフォールが投与され患者が死亡した事例です。

報道だけからでは、一般の方は原則禁止の薬が投薬され死亡したのだから投薬を指示した医師や認められた主治医が、大変な（重大な）ミスをしたに

違いはないと感じたと思います。

医療はそんなに単純なものではない、と経験豊富な医療人なら理解します。

つまり、プロポフォールは原則禁止ではありませんが、ケースバイケースで使用することもあり、現場では原則が通じない場面も発生します。そこには医師（医療）には裁量権が認められており、最終的にそこを判断するのはあくまで裁判の場のみであります。

事実、後の調査で20施設の病院では小児に対して同様の条件の下プロポフォールが使用されており、誤った使用法か否かは特に難しい判断と思われるます。

私が東京女子医大のこの事例で最も奇異に感じたことは、女子医大の理事会側と大学学長側がこの事例を通して対立した点にありました。無論、この医療事故が起きる以前から激しい両者の対立があり、色々な場面でぶつかり合っていたことは簡単に想像がつきます。医療事故が対立の争点になったことは、同じ医療人として悲しむべきことであり、亡くなった患者の家族にとっては、何ともやりきれない思いであったに違いありません。

当院で、もし不幸にして同様の事例が起こったとしても、病院や担当医・主治医さらには北海道厚生連本部との間では連絡を密に取り、一枚岩の対応に努めていく姿勢です。

私は、他の病院で起きた事例が当院でも十分に起こりうることを想定し、その対応策および予防策を常々考え、さらには実践していくことが医療安全に通じることだと考えます。

白内障について



眼科 小川 俊 彰

1. 白内障の定義

眼球をカメラに例えるとレンズに相当する部分が水晶体ですが、この水晶体の一部または全体が様々な原因で混濁する状態を白内障と言います。

2. 白内障の疫学

日本における（初期混濁を含めた）白内障の有病率は概ね50歳代で50%、60歳代で70%、70歳代で90%、80歳以上では100%で、70歳以上の30%以上が白内障の手術が必要であるが既に術後であると言われていています。

3. 白内障の原因・分類

白内障は原因別に以下の様に分類されます。

- (1) 先天白内障…先天的に白内障を生じている状態で遺伝や胎生期の感染などが原因。
- (2) 後天白内障
 - (a) 加齢白内障…加齢によるもので白内障の原因として最も多い。
 - (b) 糖尿病白内障…糖尿病によるもので血糖コントロールが悪いと生じやすい。
 - (c) 併発白内障…ぶどう膜炎など他の眼疾患に伴い生じるもの。
 - (d) 薬物白内障…ステロイドの長期服用など薬物の副作用によるもの。

- (e) 外傷性白内障…外傷によるもので穿孔性外傷では急速に進行します。
- (f) 放射線白内障…放射線の被爆により生じるもの。
- (g) その他…喫煙や体格指数（BMI）が高値になっても白内障が生じます。

4. 白内障の症状

白内障の初期は自覚症状がない場合が多いですが、進行に伴い混濁が水晶体の中央部に及ぶと眼内への光の侵入を妨げ様々な症状をきたします。

- (1) 視力低下…混濁のため霞んで見えます。
- (2) 羞明…光が眼内に侵入する際光が混濁で散乱しまぶしく感じます。
- (3) 単眼性複視…片目で見ただけで二重に見える。
- (4) 近視化…核白内障になるとレンズの屈折力が強まり近くが見やすくなります。

5. 白内障の検査・診断

散瞳薬で瞳孔を散瞳し細隙灯顕微鏡で水晶体全体を観察します。また白内障による視機能低下の評価のため視力検査や眼底検査が必要になります。白内障が高度に進行し眼底が透見できない場合は超音波検査や網膜電図などの特殊検査が必要になります。

6. 白内障の治療

白内障の治療薬として点眼薬や内服薬がありますが、いずれも予防薬で改善薬はありません。また現在では白内障の予防効果を科学的に証明できるいわゆるエビデンスのある予防薬はないと言われています。従って効果的な唯一の治療法が手術となります。

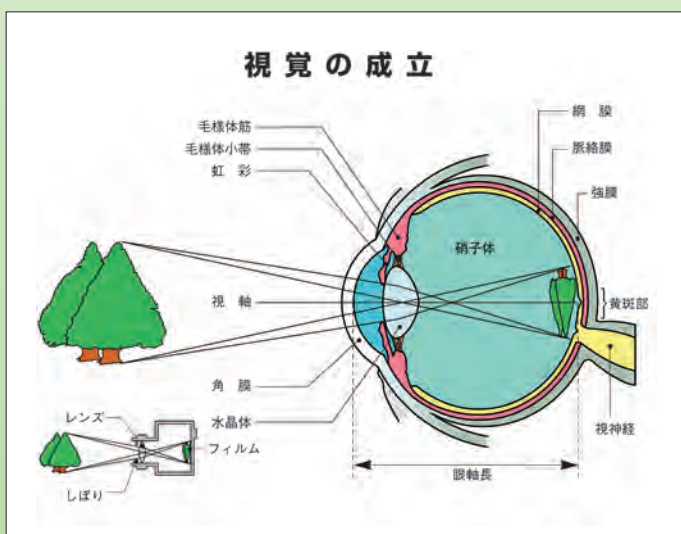
手術適応は施設によって異なり統一されていませんが、一般的には矯正視力が0.5以下で日常生活に不便を感じている場合に手術適応となります。

現在主流の白内障手術は小切開創から白内障を摘出し、水晶体の代わりとなる眼内レンズを埋め込む方法です。通常の眼内レンズは単焦点レンズで遠近調節がききません。遠近

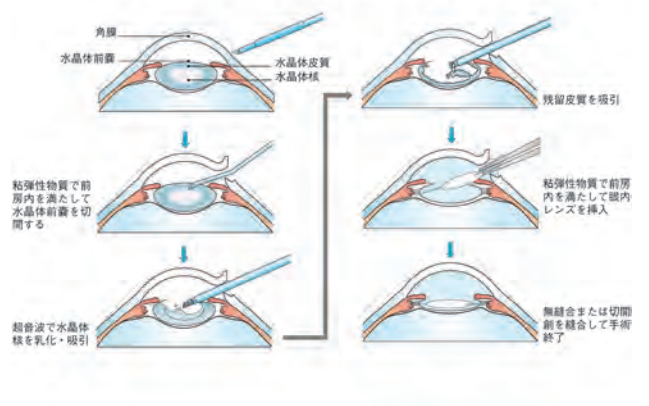
両用メガネの様な多焦点レンズの眼内レンズもありますが、今のところ保険適用はなく一般的ではありません。白内障手術を日帰りで行っている施設や入院して行っている施設がありますが手術の方法は同じです。

7. 当科での白内障手術

当科では現在年間300～350件の白内障手術を行っています。日帰りでの手術は行っていません。また多焦点眼内レンズも取り扱っていません。片眼の手術で(基本的には)4日間の入院が必要になります。両眼の手術を行う場合は4日間ずつ2回に分けて入院して頂いていますが、市外の方で希望があれば通し(11日間)での入院も可能です。



一般的な白内障・眼内レンズ挿入術の流れ



連携医療機関・関係機関のご紹介 第5回

当院の紹介と旭川厚生病院との病診連携

医療法人社団ななかまど会 なかの呼吸器科内科クリニック院長 中野 均

当院の紹介

当院は平成17年10月に開院し、今年で9年目を迎えました。外来診療では、長びく咳、気管支喘息、COPD、禁煙治療などの患者さんが多く、医師の診察の傍らで4名の看護師が検査や吸入・点滴処置のために忙しく動き回っています。また、今年の4月からは以前貴院呼吸器科に籍を置いていた澁川紀代子Drが常勤として働いています。医師が2名体制となり、より一層きめ細かな外来診療が出来るようになりました。

当院の特色としては睡眠時無呼吸症候群の検査・治療が挙げられます。当院の2階には3床のベッドがあり1泊2日の終夜睡眠ポリグラフ検査を2名の睡眠専門臨床検査技師が交代で行っております。市内ばかりでなく道北・稚内・留萌・富良野方面からも患者さんが来られ、現在ではCPAP治療患者数は約600名に達しています。また、2名の理学療法士が中心となり車の送迎による外来の心臓・呼吸リハビリテーションを行っております。息切れ、胸が苦しい患者さんは自宅に引きこもりがちになり、廃用性筋萎縮に陥り病態をさらに悪化させますので、酸素を吸いながらも運動療法を行うことが重要で、患者さんのADL・QOLの向上に役立っています。

病診連携

呼吸器疾患の特性上、ひどい肺炎や低酸素血症、気胸の患者さんが突然外来に飛び込んでくる場合が多く、距離が近いこともあり、事あるごとに厚生病院に電話をかけています。特に、秋葉先生をはじめとする呼吸器内科の先生や呼吸器外科の大谷先生には大変お世話になっており、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ます。

病診連携としては貴院呼吸器科に通院する安定期のCOPD患者をご紹介いただき、当院で週2回程度の送迎による外来呼吸リハビリテーションを行っています。急性増悪時や精査が必要な患者は貴院にお願いするというスタイルです。開院当初は訪問診療や訪問リハビリを行っていましたが、現在は通院のみです。また、呼吸器科ドクターと年に2回ほど飲みニュケーションを行い親睦を深めています。いびき・無呼吸関連では扁桃肥大・鼻閉の治療を畑山先生が率いる耳鼻咽喉科にお願いすることが多いです。さらには、貴院と近いことから、循環器・消化器・内分泌内科、外科などあらゆる診療科を気楽に紹介させていただいており、後日、詳細な患者情報を提供して頂き、日々の診療に大変役立っています。

これからも厚生病院との密接な連携を基に呼吸器疾患の診療に励んで参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



中央左が中野院長 右が澁川先生



医療法人社団ななかまど会

なかの呼吸器科内科クリニック

旭川市1条通18丁目189-1 電話34-1159

診療科目：内科、呼吸器内科、循環器内科、アレルギー科、リハビリテーション科

第5回

総合相談センター便り

がん相談支援センター

旭川厚生病院では、患者さんやご家族の不安や心配などの相談に、いつでも対応できるよう総合相談センターを設置し、保健師・看護師・認定看護師（緩和ケア・皮膚排泄ケア）医療ソーシャルワーカー・臨床心理士が、それぞれの専門性を発揮して患者さんを支援しています。

今年度は更なる地域とのつながりの強化をめざし、4月22日に「地域連携セミナー」を開催しました。

地域の“つなぐ人の顔”を厚生病院は“つなげます” —地域連携セミナー開催—



テーマ

「連携実務者が知っておくべき
平成26年度診療報酬改定後の今後」
講師：岩崎 俊一 先生
(スズケン マーケティング課)

医療機能分化を更に推進し、在宅医療を充実させるためのシフトチェンジ体制をいかにスムーズに進めるかが“鍵”となり、改定ポイントも絞ってレクチャーしていただきました。

参加施設は当院を含み15施設、46名でした。
各医療機関から事前情報として

- ①診療報酬を受けて今後取り組むこと
- ②退院支援の実際と受け入れ現状と課題・問題

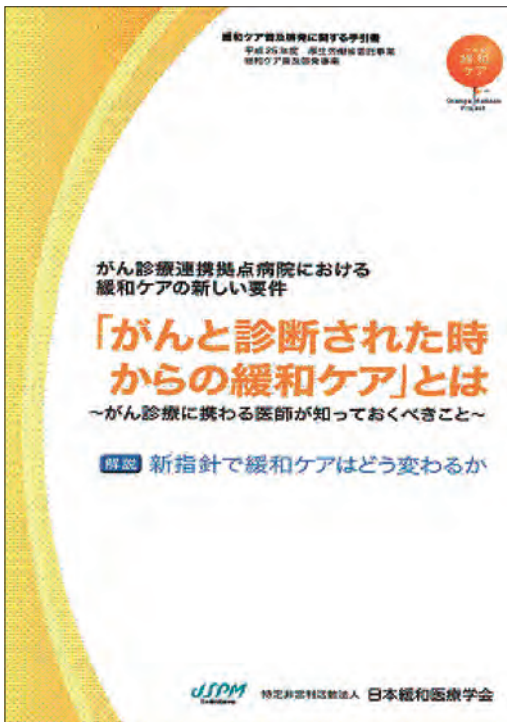
について提出していただきました。

各々施設発表では地域包括ケア病棟への取り組みや入院受け入れの現状、急性期病院からも在宅復帰率や退院支援の現状報告がされました。有効な情報共有の機会になっており、事後のアンケートでは継続開催希望の声が多くありました。

旭川厚生病院は今後も「地域のつながり」の架け橋になりたいと考えています。



「がん診療連携拠点病院」がん相談支援センターより ①がんと診断された時からの緩和ケア



「がん対策基本計画」では、“より早い時期から適切に緩和ケアを提供”を推進し、重点課題となっています。

冊子には、これからの緩和ケアの方向性や、がん診療に携わる医師が診断時から緩和ケアを行うにあたって具体的な取り組みを5つのアクションで提示され、活用しやすいものとなっています。

ACT 1：患者家族の心情への配慮とコミュニケーション

ACT 2：適切な情報提供と意思決定支援

ACT 3：苦痛のスクリーニングと適切な症状マネジメント

ACT 4：専門的緩和ケアの利用

ACT 5：患者家族に応じた治療・療養の場の選択

「緩和ケア普及啓発に関する手引書」をネット検索PDFダウンロードが可能です。

「がん診療連携拠点病院」がん相談支援センターより ②北海道がんサポートブック



サポートブックは、がんと診断された患者さんが活用できる身近な相談窓口などが掲載されています。

困っていらっしゃる患者さんご家族がいらっしゃったらご紹介してください。

冊子には、

(1) がん相談支援センターの役割

「がんと診断されたけど…心の整理がつかない」

「がんの治療や療養について情報がほしい」

など、がんという病気になっておこる不安や心配に専門の相談員が対応する窓口です。

(2) 道内がん診療連携拠点病院およびがん診療連携指定病院の一覧

相談窓口の対応や患者サロンの運営等について各施設ごとに紹介されています。

詳しい内容を知りたい方は

北海道のがん対策情報「がんサポートコーナー」 http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/gan_support.htm

総合相談センター・がん相談支援センター 文責：看護部管理副部長 舟橋 美智代

臨床工学技士のお仕事

医療技術部臨床工学技術科

技士長 今泉 忠 雄

臨床工学技士は、生命維持管理装置の操作と医療機器の保守点検を行うことを業務としています。生命維持管理装置とは、呼吸（肺）、循環（心臓）、代謝（腎臓）の機能の一部を代行する装置です。高度医療を行う医療現場、そこでは24時間休むことなく医療機器が治療を担っています。そのような状況の中で私たち臨床工学技士は、院内の臨床エンジニアとして、医師、看護師、医療スタッフとチームとしての連携を大切にし、患者さまが安全に医療を受けていただける様に万全を期しています。

それでは、臨床工学技士の仕事について代表的なものをいくつかご紹介いたします。

血液浄化業務

体内に貯まった老廃物などを排泄あるいは代謝する機能が働かなくなった場合に行う治療で、血液透析療法、血漿交換療法、血液吸着法など様々な血液浄化療法が存在します。臨床工学技士は透析開始時の穿刺や人工透析装置の操作を行います。



ペースメーカー業務

不整脈に苦しむ患者さまはペースメーカーといった機器を体に植込む手術を行います。臨床工学技士は、心臓ペースメーカーの体内植込み手術の立会いから、ペースメーカーを植込んでいる患者さまに定期的に動作点検やバッテリーチェックなどを行います。



集中治療室（ICU・NICU）業務

集中治療室では手術をした後の患者さまや、呼吸・循環・代謝などの機能が急に悪くなり、命に関わる患者さまを収容して集中的に治療を行います。臨床工学技士は、人工呼吸器や血液浄化装置、保育器などの複雑な装置の操作点検を行い、生命維持をサポートしています。



手術室業務

手術室には、大小合わせて医療機器が数多く存在します。手術の内容により使用される機器は多種多様であり、手術が円滑かつ安全に行われるように臨床工学技士は、その手術室内の広範な医療機器の操作や事前の管理を行います。



心血管カテーテル業務

心臓カテーテル検査は心臓病の診断をするための検査方法であり、手術の適応、術式を決定する重要な検査です。臨床工学技士は検査一連の記録をするためにコンピュータ（ポリグラフ装置）を操作し、緊急時には補助循環装置などの業務を行います。



医療機器管理業務

医療施設の様々な分野で使用される医療機器の安全性確保や性能維持を目的に機器の保守・点検・修理と安全使用のための研修会や取扱い説明会を行っています。また医療機器の一括管理し、効率的で適切な運用ができるようにしています。



旭川厚生病院の健康管理活動

当院では、今の前進である「上川医療圏旭川保健病院」の時代（昭和16年）より、農村の無医地区巡回診療を開始し、現在は、厚生連の組織理念と当院健診センターの基本理念の基づいた健康管理活動を実施しております。

また、医療併設型の健診施設であるという利便性を活かして、JA・健保組合・地元自治体との連携を図りながら、組合員並びに職域、地域住民の健康を守るため、がん検診を含めた総合的な疾病予防の視点に立った対策を積極的に展開しております。

●人間ドック

健診センターで実施しております人間ドックは、1日55名の定員で月・水・金を男性日、火・木を女性日として実施しております。オプション検診についても各種実施しており、早期発見・早期治療をはじめ、生活習慣病予防のお手伝いをさせていただきます。


健診日についてはあらかじめ電話等での予約が必要です。お問い合わせ等ございましたら、下記までご連絡ください。

●巡回ドック（特定健診）

各JA・自治体を胃・胸部併用の検診バスで訪問し、巡回ドック（特定健診）を実施しております。検査項目は人間ドックに準じており、超音波検査以外はほぼ同様の検査項目を受診することが可能です。（一部地域では骨検診も実施）

平成20年度よりメタボリックシンドロームに着目した『特定健診』がスタートし、問診・身体計測・血圧測定・尿検査・血液検査が必須項目となり、医師が必要と認めた場合は、心電図・眼底検査・貧血検査の詳細項目を実施することとなります。



 JA北海道厚生連

旭川厚生病院健診センター

〒078-8211 旭川市1条通24丁目

●ご予約は ☎(0166)33-7171 内線2146/2198

JA北海道厚生連旭川厚生病院 外来診療体制表

受付時間

新患受付 午前の部 8:15~11:30 午後の部 12:45~15:00
 再来受付 午前の部 7:45~11:30 午後の部 12:30~15:00
 (診察時間 午前の部 8:30~ 午後の部 下記参照)

- 各診療科ごとに診療体制が異なります。
- 下記表の●が一般外来として受診可能な時間帯です。(△は予約制の一般外来です)
- 特殊外来は予約制です。下記特殊外来一覧をご参照ください。

お問い合わせ 旭川市1条通24丁目111番地3 TEL (0166)33-7171

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
血液・腫瘍内科	●		●		●		●			
代謝・内分泌内科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
呼吸器科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
消化器科	●	△	●	△	●	△ 特殊外来	●	△	●	△
循環器科	●	△	●	△ 特殊外来	●	△ 特殊外来	●	△ 特殊外来	●	△
神経内科									●	
小児科	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来
外科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△ 特殊外来
乳腺外科						△		△ 第2・4	△	△
呼吸器外科	●		●		●		●		●	
整形外科	●		●		●	△	●		●	
産婦人科(婦人科)	●		●		●		●		●	
産婦人科(産科)	●		●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	
皮膚科	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●		●		●	● 14:00~
形成外科		● 13:00~	●				●			● 13:00~
泌尿器科	●	△	● 尿・尿物のみ		●		● 尿・尿物のみ		●	△
耳鼻咽喉科	●		●		●		●		●	
眼科	●				●		●		●	
精神科	休診中									
麻酔科	●				●				●	
放射線科	●		●		●		●		●	
緩和ケア科	●	△	●	△	●	△	●	△		

●特殊外来一覧

〔消化器科〕

肝臓(水) 13:30-16:00 (予約制)

〔小児科〕

慢性疾患(月・火・金)

13:30-15:30 (予約制)

予防接種(月) 13:30-15:00 (予約制)

循環器(旭医出張医)(第2・第4水)

13:30-15:30 (予約制)

1ヵ月健診(水) 13:00-15:00 (予約制)

内分泌(毎月第2・3・4木)

13:30-15:30 (予約制)

発達(木) 13:30-15:30 (予約制)

神経(月) 13:30-15:30 (予約制)

(木) 8:30-15:30 (予約制)

乳児健診(金) 13:30-15:00

乳児健診(佐藤Dr)(毎月第1木)

13:30-15:00

〔外科〕

乳腺検診(木) 13:30-15:00 (予約制)

ストーマ(第3金) 13:00-16:00 (予約制)

” 【新患可】※

ストーマケア(金) 13:00-16:00 (予約制)

〔乳腺外科〕

乳腺外来(第2・第4木) 13:30-16:30 (予約制)

〔産婦人科〕

産後1ヵ月健診(水) 14:00-16:00 (予約制)

〔神経内科〕紹介患者のみ

〔放射線科〕

(月・火・水・木) 9:00-11:00

※【新患可】以外の外来は予め午前外来受診となります。

※麻酔科の診察時間は9:30~11:30となります。

※血液・腫瘍内科の金曜日午前中は院内紹介患者のみの診察となります。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

〒078-8211 旭川市1条通24丁目111番地3
 TEL:(0166)33-7171 FAX:(0166)33-6075

●旭川厚生病院ホームページアドレス

<http://www.dou-kouseiren.com/byouin/asahikawa/>



※PCサイトへ接続されるQRコードの為、うまく表示されない場合があります。